

平成26年度人事院政策評価結果

		政策所管部局	人材局
政 策	3 採用試験の適正な実施		
目 標	<p>(政策目標) 採用試験を公正かつ円滑・確実に実施する。</p> <p>(具体的取組) 平成25年度においては、航空保安大学校採用試験の第1次試験における答案の紛失、一般職試験（高卒者試験）における適性試験の実施ミス等が生じたところであり、今年度の採用試験については、試験事務の一部を各府省に委託している試験への総合支援体制としての事前研修への人事院職員の派遣、各府省職員の実地研修等を行うとともに、試験の実施に携わる職員に対する事前研修を十分に行うことにより、採用試験を公正かつ円滑・確実に実施する。 試験問題の作成については、平成25年度の国家公務員採用総合職試験（院卒者試験及び大卒程度試験）において、出題文に誤りが発生したところである。今年度の全試験について昨年度見直しが行われた業務マニュアルに基づき、適正な試験問題を作成して、採用試験の公正かつ確実な実施に努める。 国家公務員採用総合職試験への外部の英語試験の活用については、平成25年度において、活用する英語試験の種類や基準となる点数を含む活用方法全体の概要を公表したところであり、平成27年度からの実施に向けて、英語試験のスコア等の具体的な確認手続の決定等の準備を確実に行う。 平成27年度における国家公務員採用試験日程の後ろ倒しに向けた準備（会場確保、人員配置等）を確実に行う。</p>		
具体的取組結果	<p>《取組内容1》 平成26年度試験の実施については、平成25年度における試験の実施ミス等を踏まえ、再発防止のため、航空保安大学校学生採用試験のように試験事務の一部を当該試験により職員を採用する予定の府省（以下「委託機関」という。）に委託している試験（以下「委託試験」という。）への総合支援として以下のような取組を行うとともに、試験係官が試験実施の際に使用する資料の関連部分をより分かりやすい記述に改めるなどの取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全ての委託試験について、試験実施の段階ごとに、試験係官が注意すべき事項等をまとめたチェックリストを作成し、各委託機関に配布し、活用することとした。</li> <li>委託機関の職員を人事院が実施する総合職試験第1次試験に試験係官として受け入れ、試験実施に関する実地研修を行った。 受け入れた職員数 14人、受け入れた試験地 10試験地</li> <li>委託機関が実施する試験係官への事前研修に人事院職員を派遣し、試験実施に関する注意事項等の説明を行った。 派遣した事前研修 4回、事前研修の参加者 約150人</li> <li>委託機関が実施する試験の当日に人事院職員を派遣し、試験の実施状況等について確認を行った。 派遣した委託試験 3試験、派遣した職員数 6人</li> </ul> <p>《取組内容2》 試験問題については、業務マニュアルに基づき、多肢選択式試験及び記述式試験を合わせ、全試験で約2750題の試験問題を作成したが、試験問題の確認体制の強化により、適切な試験問題を作成することができた。また、総合職試験の多肢選択式試験については、院卒者試験及び大卒程度試験の基礎能力試験並びに専門試験（全18区分）の平均正答率が、一つの区分の専門試験を除き、能力の識別の観点から目安とする範囲内（40%～60%）に入っており、適正な試験問題が作成されていた。 あわせて、試験結果処理における得点処理ミスを防止するため、全試験において二重のチェックを行い、ミスは発生しなかった。</p>		

	<p>《取組内容3》          国家公務員採用総合職試験への外部英語試験の活用に向けた準備については、活用する外部英語試験の実施団体や既に職員採用試験に外部英語試験を活用している地方公共団体に対するヒアリングも踏まえ、平成27年度総合職試験において外部英語試験のスコア等の確認事務が適正に行えるよう、具体的な確認手続等を定める「英語試験スコア等確認要領」を策定し、実際に確認事務を行うこととなる各地方事務局（所）に説明したほか、受験予定者向けの受験案内に英語試験に関する説明を盛り込むなどの取組を行った。</p> <p>《取組内容4》          国家公務員採用試験日程の後ろ倒しに向けた準備については、総合職試験の実施に必要な試験場について、これまで使用してきた施設の使用見込みを確認するとともに、使用できなくなる施設の代替施設を探すなど試験場の確保に努め、試験場を確保した。また、試験日程の後ろ倒しに伴って総合職試験と一般職試験（大卒程度試験）の日程が近接することによる試験事務の輻輳に対応するための人員確保に必要な経費を確保するなどの取組を行った。</p>
測定指標（ある場合に記入）	
達成度の評価	<p>評語 C</p> <p>《理由》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度試験の実施については、以下の実施ミスがあったが、おおむね適正に実施できたものとする。             <ul style="list-style-type: none"> <li>国家公務員採用総合職試験第1次試験において、鹿児島市の試験場で首席試験官を務めた人事院職員が、個人名の記載のある試験実施に関する報告書を紛失するというミスが発生した。紛失判明後、直ちに当該報告書に個人名が記載された受験者に紛失の事実を連絡し、謝罪を行うとともに、紛失の事実を公表した。また、再発防止のため、各試験場から地方事務局（所）等への報告の方法や報告書の様式を見直すなどの措置を講じた。</li> </ul> </li> <li>試験問題の作成及び試験結果処理については、適正に実施できたものとする。</li> <li>外部英語試験の活用に向けた準備については、活用する外部英語試験のスコア等の確認事務の基本となる「英語試験スコア等確認要領」の策定、各地方事務局（所）への説明等を確実に行った。</li> <li>試験日程の後ろ倒しに向けた準備については、試験場の使用見込みの確認や経費の確保を行うとともに、代替施設の確保を行った。</li> </ul>
施策の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託試験においては、試験事務に精通した職員のみならず、地方機関等の幅広い職員が試験実施に携わっており、事前研修の不足や確認作業の不徹底等が実施ミスにつながっていたと考えられる。平成26年度委託試験については、特段の実施ミスは生じていないことから、事前研修の支援やチェックリストの活用等を内容とする委託試験への総合支援については、一定の効果があると考えられる。</li> <li>試験問題の作成については、試験問題の確認体制を強化したことで、出題ミスの防止につながった。また、試験結果処理については、昨年度から実施している二重チェックが機能していた。</li> </ul>
今後の施策に反映させるべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託試験への総合支援については、一定の効果があると考えられることから、未実施の委託機関への働きかけも含め、引き続き実施していく。</li> <li>試験問題の作成及び試験結果処理については、業務マニュアルの再確認及び見直しを行うなど、引き続き出題ミス及び得点処理ミスの防止に努めるとともに、国家公務員採用試験として適正な試験問題の作成を効率的に行う。</li> </ul>
有識者の意見	<p>○ 27年度から開始する外部英語試験の活用については、3年後にもう一度見直すということだが、試験結果の分析を行い、加点を行うレベルの引上げに向けて引き続き検討してもらいたい。</p>